

B 新型コロナウイルス SARS-CoV-2、その感染症 COVID-19 について

要約(2020年11月28日現在)

最も大事なことから

他人への感染源とならない:3密を避ける、マスク着用厳守、発熱時及び体調不良時に人が集まる場所へ出ていかない

自分が感染しない:3密を避ける、マスク着用、手洗い、うがい

具体的には、

必要のない会話、特に大声、は慎む

宴席、長時間の会話、場への慣れ(まあいいだろう) = 非常に危険な行為

参考:濃厚接触者の定義より一部抜粋

3条件:1m以内、マスクなし、15分以上の接触(会話を含む)

但し、一つだけでも危険な接触と考えられることもある

マスクの着用

屋外:2m離れていれば会話などをしない限り不要

屋内:原則着用

稽古時:面マスク+マウスガード必須、アイガード着用順守

この条件下であれば発声は問題ない、無駄な発声はつつしむ

フェイスガードなどがあるがあくまで利便性重視のものでありマスクの代わりとなるものではない。使用時の条件に注意が必要

◎全剣連段審査受審者には面マスク必須、ガード、シールドは推薦となっていますが審査時実技の際には大きな声の発声はありますが、密にはならないためと考えられます。稽古のような際にはマウスガード(マウスシールド)を是非併用してください。

◎最近テレビ出演者等が使用している耳掛け式のマウスガードはマスクの代用とはなりません。感染予防のために使用すべきものではありません。

基本的に呼吸がとても楽なもので呼吸器関連の感染を防ぐ機能があるものではありません。

感染性

- ・現在、ウイルスの感染性は全世界で高まっていると考えられます。ただ病原性はかわりないと思えます。

- ・治療方法の確立により、入院患者の死亡率は全年齢で改善していますが、冬季になり、空気の乾燥、3密になりやすい、換気が不十分になりやすい、慣れによる気のゆるみなどから現在感染者数は爆発的に増加しています。
- ・特に高齢者の感染増加、重症者の増加も顕著で医療はひっ迫してきています。

危険因子

- ① 高齢者
- ② 糖尿病、高尿酸血症
- ③ 循環器疾患
うっ血性心不全、末梢動脈疾患、高血圧、不整脈
- ④ 呼吸器疾患
慢性閉塞性肺疾患(COPD)、現在の喫煙習慣
- ⑤ 慢性腎臓疾患
- ⑥ 妊娠はむしろリスクが軽いと考えられるが後期では前期に比して重症化しやすい
- ⑦ 男性(女性に比して、ただし重症例では差がないという報告もある)
- ⑧ 肥満 BMI 30%以上
BMI30% = 身長 170 cmでは 87kg、160cmでは 77kg

ワクチン

- ・世界で 11 種が開発中、そのうち米・英の 2 種が有望視
- ・日本でも別個に開発中
- ・政治的目的で使用され安全性が損なわれないよう 9 社が声明を出した
- ・日本は英 AstraZeneca 社から 1 億 2000 万回分、米 Pfizer 社から 1 億 2000 万回分、米 Moderna 社から 4000 万回分の供給を受けることで合意している
- ・英 AstraZeneca 社のワクチン一時重度の合併症があるとされ、治験を中止したが問題ない(関係がない)と判断され治験再開
- ・世界で独占的な使用がされないよう、公平に各国に配られるよう努力されている
- ・まだ開発の行方は予断を許さないが、来春には一般使用の可能性あり
- ・効果についても有効性の目標は 50~70%
- ・90% 予防できる(有効)と報告されたものもあるが詳細は発表されていない
- ・中和抗体発現の期待は大きく、一部証明されているが効果持続期間については 3 ヶ月未満か
- ・外国から搬送する場合零下 70~80°C の状態で搬送する必要があり、かなり困難を伴うことが予想されている
- ・日本政府の発表ではワクチン接種は全員無料、医療従事者や高齢者、リスクの高い合併症を持つ人に優先接種としている
- ・優先接種対象となる合併症については関係医療学会と検討中

治療

- ・基本的に対症療法(症状を緩和し、悪化を防ぐ)のみ
- ・特異的特効的な治療薬、治療方法はまだない
- ・しかし、複数の治療薬が開発中であり、悪化を有効に防ぐ薬剤は複数確定されている
- ・第1波時以上の重症者が多発した場合医療の機能不全が起こりうる
第1波時以上に病床は確保されているが、医師・看護師などのマンパワーには限りがあり、対応限界がある。現在その危険が顕著となっている

現状ではまだ治療への期待は小さく、予防が非常に重要